

第7回保育について語ろうデーのお知らせ

令和元年12月17日(火) 実施しました!



香川大学教育学部 附属幼稚園 ・ 高松園舎

参加者：幼稚園教員 丸亀市 1名
さぬき市 6名
土庄町 3名
保育所保育士 高松市 1名
小学校教諭 三木町 1名
共に語りあった方：金子之史先生
片岡元子先生

9:15	保育公開
11:30	降園
12:00	昼食会・自己紹介
13:15	協議1 保育について
15:00	協議2 事例検討
16:15	終了



語り合ったことのお知らせします!

【協議1 公開保育から「保育者の出番って?」】

先週末に生活発表会を終え、子供たちの「遊びたい」思いが実現できる日々が戻っていました。だからこそ保育者は、遊びの充実と育ちの充実の両者を心から願います。リレーごっこでは、どんなコースにしようか、どんなチームにしようかと話し合われていました。解決できるまで話し合いたい、でも何度も走ってみる実体験の中で試行錯誤する経験もさせたい。話し合いが長くなればなるほど保育者は悩みます。また、砂場をはじめ園庭・園舎のあらゆる所で、子供たちはその子なりの関わりを楽しんでいました。一人一人の追求を保障したい、でも友達とつながること等の育ちも支えたい。「一人一人の楽しさを保障すること」と「保育者の願いを沿わせること」の狭間で揺れる保育者の在りようから、「保育者の出番」について話し合いました。

【協議2 「遊びこむ姿を支える」をテーマに、グループに分かれて事例検討をしました】

事例1

隣接する小学校の一輪車に夢中の子供の姿から、幼稚園に一輪車を設置しました。しかし、一輪車に触れることすらなくなった子供たち。予想外の姿に悩む若手保育者の思いに寄り添いながら、この状況が生まれた要因などについて話し合いました。

事例2

時計づくりに夢中になる5歳児の姿を記した事例から、保育者が提示した活動の中で、子供の「こうしたい」思いを引き出したり、実現に向けて寄り添ったりする援助について話し合いました。「作ること」を通して何を育てたいか、自分の保育を振り返る機会になりました。

事例3

色鉛筆の削りカスの美しさやブランコから聞こえてくる音になりきること等、保育者の思いも寄らないものにまで深い探求心を発揮するU児。「心揺さぶられる子供の姿や思い全てを大切にしたい」と願うK教諭の心につれ、保育者として自分はどうかとうと問いました。

事例4

運動会のメイン種目5歳児全員バトンリレー。運動会のためだけにチームやルールを決めず、子供の思いを大切にしようと始めたリレーは、連日楽しい雰囲気でした。しかし、運動会が近づくに連れ、保育者の心は揺れます。そんな素直な心に共感しながら、リレー遊びを楽しむことと園行事の関係について話し合いました。

【語ろうデーに参加して感じたこと ～参加者アンケートより～】

- 事例を検討する中で聞いた他園の取組や先生方の思いが、私の心にたくさん響いた。(20代Aさん)
- 私は時計づくりの事例グループに参加した。子供たちの「やってみたい」を叶えて、一人一人の個性が出る保育を考え直したい。(30代Bさん)
- 公立園では「作品は作らなければならない」「保護者に見られる」とい切迫感で作らせることが多い。今日「子供のために作る」「作る中で遊びこんでいく」という意識を持ち直すことができた。(30代Cさん)

次回は、令和2年1月15日(水)附属幼稚園(坂出)です。